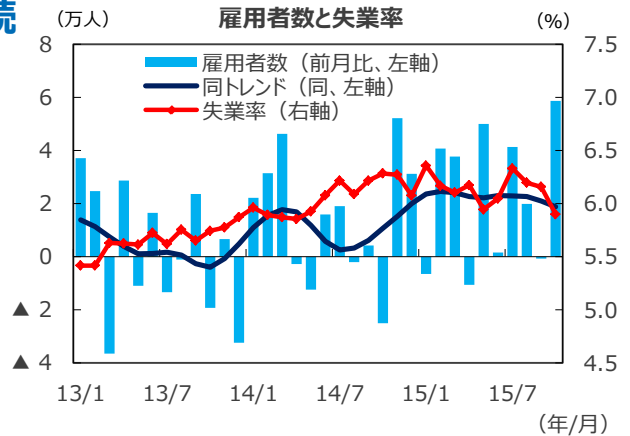


今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済（2015年11月）

緩やかな景気回復、物価の安定が継続

ポイント1 労働市場は改善基調を持続 企業の労働需要は堅調

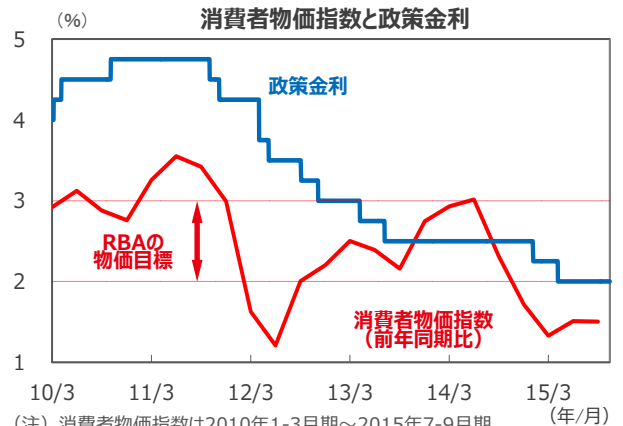
- 10月の雇用者数は前月比5.9万人の増加となりました。月ごとの振れを均すために、政府公表のトレンド値を見ると+1.9万人でした。前月の+2.1万人から鈍化しましたが、引き続き高い水準を維持しています。一方、失業率は9月の6.2%から5.9%に大きく低下しました。失業率の6%割れは今年5月以来5カ月振りのことです。
- 企業の景況感指数は、労働需要が拡大基調にあることを示唆しています。個人消費も、9月の小売売上高が前年比+3.7%と+4%前後の伸びを維持しました。



(注) データ期間は2013年1月～2015年10月。トレンドは政府公表値。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価は低位で安定 政策金利は6会合連続据え置き

- 7-9月期の消費者物価指数は、前年同期比1.5%の上昇でした。豪州準備銀行 (RBA) の物価目標である+2%～+3%の下限を引き続き下回っています。今後も、賃金上昇率や原油価格が低位にあることから、安定的に推移する見込みです。
- RBAは、11月3日の会合で、政策金利を2.0%に据え置きました。6会合連続の据え置きです。緩やかな景気回復と低インフレの持続により、過去最低の政策金利は当面据え置かれそうです。



(注) 消費者物価指数は2010年1-3月期～2015年7-9月期。
政策金利は2010年3月31日～2015年11月12日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気は緩やかな回復が継続、豪ドルは徐々に底堅い推移へ

- 景気は、輸出、設備投資が低迷しているものの、これまでの利下げの効果により民間消費、住宅投資が堅調に推移していることから、緩やかな回復を続ける見通しです。
- インフレは、賃金の伸び悩みや資源価格の下落などにより、当面低位で推移する見込みです。
- 豪ドルの対円レートは、豪州の景気回復の持続見通しなどから、底堅い推移が予想されます。

ここもチェック! 2015年11月11日 最近の指標から見る中国経済（2015年11月） 2015年11月 4日 豪中銀、6会合連続の政策金利据え置き

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。